

遮へいスーツ着用時の線量確認用 APD着用不備について

< 参考資料 >
平成25年6月5日
東京電力株式会社

【概要】平成25年6月4日10時頃 確認

・当社社員3名が、3号機所内変圧器(B)採油作業にて被ばく低減のため遮へいスーツを着用していたが、3名が2台(スーツの外側・内側)のAPDのうち1台(外側)を評価位置(胸部)以外に着用(手に保持)していた。

【遮へいスーツ着用時の線量評価】

○遮へいスーツは、被ばく低減のため、自主的に着用。

○スーツを着用する時は、形状によってスーツで覆われた部分と覆われていない部分で被ばく線量に差が出る可能性がある(不均等被ばく)。それら进行评估するためにAPDをスーツの外側と内側の胸部で線量を確認する運用としていた。

・外側: APD値を確認

・内側・外側: 体幹部不均等被ばく評価 および 実効線量をAPD値を比較して算出

○今回着用していた遮蔽スーツは全身を覆っており、不均等被ばくはないものの、社内運用として念のため、外側もAPDを着用する運用としていた。

【線量評価】

○対象者に不均等被ばくはないものの、仮に不均等被ばくとして評価を実施。

※震災以降発電所内では多数のスーツの使用実績があり、スーツの内側にAPDを着用していれば、被ばく線量の評価が可能。

○胸部APD値と不均等被ばくを想定した実効線量評価値に差はなく不均等被ばくとする結果にはならなかった。

(参考)対象者の被ばく線量

【5/29】

作業員A	APD(遮蔽スーツ内側(実測値)):	<u>1.07mSv</u>	実効線量(不均等被ばく:評価値)	<u>1.07mSv</u>
作業員B	APD(遮蔽スーツ内側(実測値)):	<u>0.83mSv</u>	実効線量(不均等被ばく:評価値)	<u>0.83mSv</u>

【6/4】

作業員A	APD(遮蔽スーツ内側(実測値)):	<u>1.09mSv</u>	実効線量(不均等被ばく:評価値)	<u>1.09mSv</u>
作業員B	APD(遮蔽スーツ内側(実測値)):	<u>0.97mSv</u>	実効線量(不均等被ばく:評価値)	<u>0.97mSv</u>
作業員C	APD(遮蔽スーツ内側(実測値)):	<u>0.48mSv</u>	実効線量(不均等被ばく:評価値)	<u>0.48mSv</u>

遮へいスーツ

今回使用した遮へいスーツ



他の遮へいスーツ

